

2024年（令和六年） 10月25日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

当週(10月17日～23日)の国際石油市場は、イスラエルとイランの対立の緊張が高まる中、イスラエルはハマスの新最高指導者シンワル師を殺害、一段と緊張は激化する一方、中国経済の後退観測も高まり、前週の2024年世界石油需要見通しの相次ぐ下方修正もあって、小幅ながら、不安定な動きを示した。

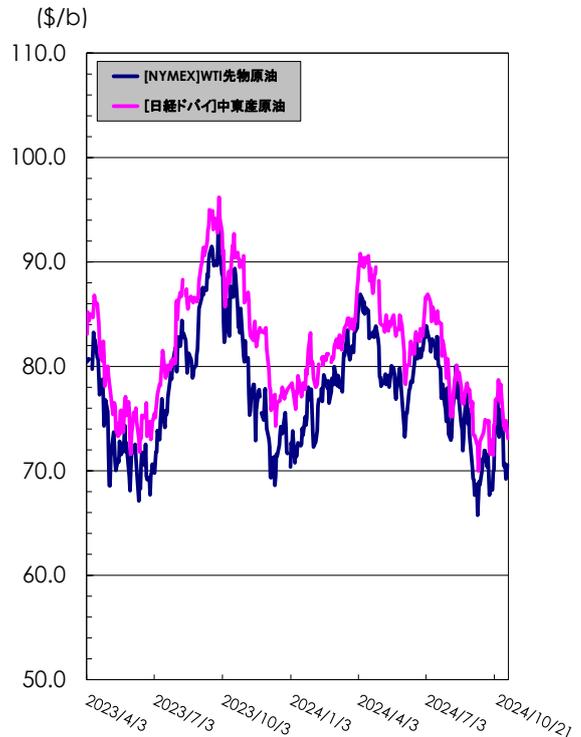
NYのWTI原油先物市場は、17日、反発の70.67ドルで始まったが、続伸の22日を除き、反落・反発を70ドル前後で繰り返し、23日は70.77ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場(12月渡し)も、前週(10月10日～16日)は74.20～78.30ドルの範囲で推移したが、当週は、10月17日73.90ドル、18日74.80ドル、21日73.10ドル、22日73.70ドル、23日75.10ドル。

対ドル為替レート(TTM)は前週(10月10日～16日)148.62～149.67円の範囲で推移したが、当週は、10月17日149.64円、18日150.13円、21日149.43円、22日150.74円、23日151.37円となった。

そのような中で、10月21日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も横ばい、灯油も同横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.9円となった。10月24日～30日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は15.5円(補助金がない場合の次週予想価格190.3円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は5.3円)と、2.8円の減額となった。

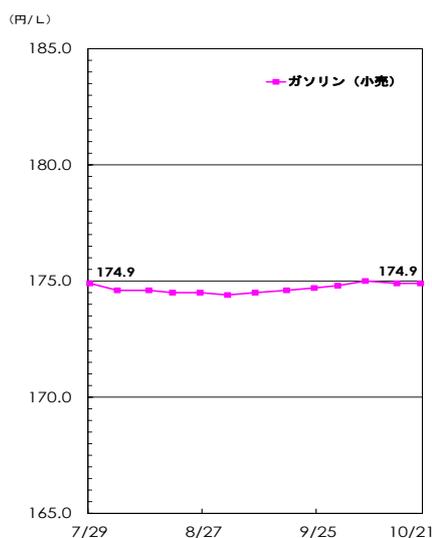
| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|-------------------------|-------------|----------------|----------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl) | 10/13～10/19 | 2,559 ▼-89 | ▼ - |
| | トッパー稼働率 (%) | " | 73.9 ▼-2.6 | ▲ - |
| | 原油在庫量 (千kl) | 10/19 | 11,133 ▲314 | ▲ - |
| 価格 | 中東産原油(日経バイ) (\$/bbl) | 10/21 | 73.10 ▼-1.20 | ▼ -17.8 |
| | WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl) | 10/21 | 70.56 ▼-3.27 | ▼ -14.9 |
| | 原油CIF単価 (\$/bbl) | 9月下旬 | 81.69 ▼-0.88 | ▼ -4.87 |
| | ①原油CIF単価 (¥/kl) | " | 73,233 ▼-1,904 | ▼ -6,521 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | " | 142.53 ▲2.15 | ▲ 3.95 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 10/21 | 150.43 ▲0.24 | ▲ 0.46 |



(単位: 千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|------|-------------|---------------------------|-------------|-------|
| 需給 | 生産 | 10/13 ~ 10/19 | 819 ▲ 11 | ▲ - |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | " | 722 ▲ 68 | ▼ - |
| | 輸出 | " | 0 ▼ -55 | ▼ - |
| | 在庫 | 10/19 | 1,710 ▲ 97 | ▲ - |
| 価格 | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) 10/15 ~ 10/21 | 81.0 ➡ 0.0 | ▲ 6.0 |
| | | (TOCOM/中部) 10/21 | 79.0 ▼ -1.0 | ▲ 4.0 |
| | 小売 [週動向] | (資工庁公表) 10/21 | 174.9 ➡ 0.0 | ▲ 1.5 |

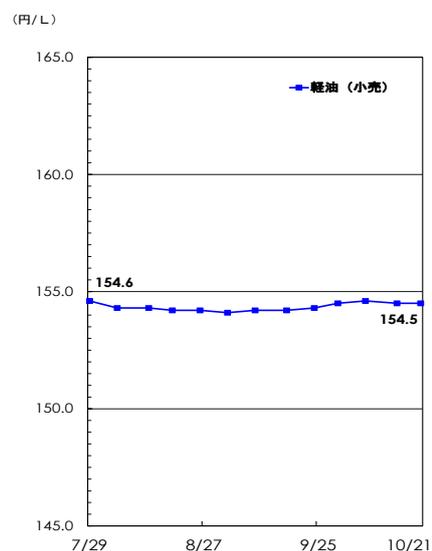
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

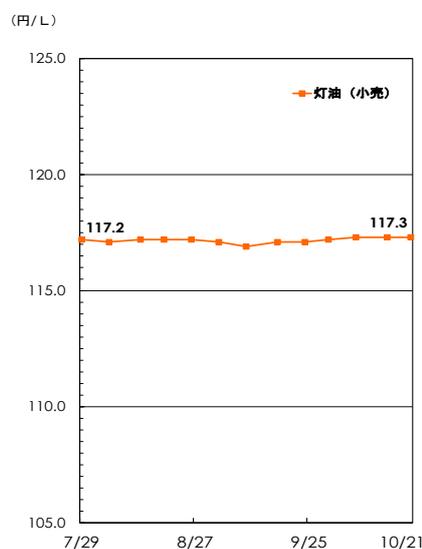
| 軽油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|-------------|---------------------------|-------------|-------|
| 需給 | 生産 | 10/13 ~ 10/19 | 656 ▼ -16 | ▲ - |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | " | 561 ▼ -49 | ▼ - |
| | 輸出 | " | 81 ▼ -8 | ▼ - |
| | 在庫 | 10/19 | 1,422 ▲ 15 | ▲ - |
| 価格 | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) 10/15 ~ 10/21 | 81.9 ▼ -0.9 | ▲ 6.5 |
| | | (TOCOM/中部) 10/21 | - | - |
| | 小売 [週動向] | (資工庁公表) 10/21 | 154.5 ➡ 0.0 | ▲ 1.4 |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|-------------|---------------------------|-------------|-------|
| 需給 | 生産 | 10/13 ~ 10/19 | 168 ▼ -49 | ▼ - |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | " | 58 ▼ -68 | ▼ - |
| | 輸出 | " | 83 ▲ 52 | ▲ - |
| | 在庫 | 10/19 | 2,614 ▲ 27 | ▼ - |
| 価格 | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) 10/15 ~ 10/21 | 80.4 ▼ -0.6 | ▲ 7.4 |
| | | (TOCOM/中部) 10/21 | 81.0 ➡ 0.0 | ▲ 6.0 |
| | 小売 [週動向] | (資工庁公表) 10/21 | 117.3 ➡ 0.0 | ▲ 1.0 |



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(10/10～10/16)のNYMEX・WTI先物市場は70.39～75.85ドルの範囲で推移した。

当週、10月17日は、イスラエルによるハマス最高指導者シンワル師殺害発表があり、中東情勢は緊迫化、また、米国内原油在庫は予想に反する取り崩し報告で5営業日ぶりに反発した。11月物終値は前日比0.28ドル高の70.67ドル。

週末18日は、中国で第3四半期の経済成長率が4.6%と政府目標5%を下回り、2四半期連続で鈍化、中国の原油処理量も6か月連続の前年同月比減少し、石油需要減速懸念から反落した。11月物終値は同1.45ドル安の69.22ドル。

週明け21日は、中国は、金融緩和を拡大、景気支援策強化を発表、また、イスラエルはレバノンの親イラン武装組織ヒズボラへの攻撃を強化、イランとの緊張も続く中、反発した。11月物終値は同1.34ドル高の70.56ドル。

22日は、中東情勢の緊張が続く中、中国景気後退への過度な警戒感が和らぎ、前日に続き、続伸した11月物終値は

同1.53ドル高の72.09ドル。

23日は、この日発表の米国内原油在庫報告が市場予想を上回る積み増しで、需給緩和傾向が見られたこと、また、米国株式市場の軟化による投資意欲の低下、為替市場のドル高に伴う原油先物の割高感もあったことから、反落した。この日から取引の中心限月となった12月物終値は同0.97ドル安の70.77ドル。

2 海外/米国石油市場

10月17日発表の11日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間石油在庫統計は、原油在庫は前週比220万バレル減と、市場予想に反する取り崩しとなり、ガソリン在庫と中間留分在庫の取り崩し幅も市場予想を上回り、市場では需給の緩和感が広がった。また23日の発表の18日時点の同統計は、原油在庫が550万バレル増と、市場予想(30万バレル増)を上回る積み増し幅となった。ガソリン在庫も予想に反して積み増しだった。

EIAによると10月21日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.7セント安の1ガロン3.144ドル(124.8円/ℓ)と2週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比7.8セント

高の1ガロン3.553ドル(141.0円/ℓ)と5週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、10月18日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の482基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年10月13日～10月19日に休止したトッパー能力は43.9万バレル/日で、前週に対して1.4万バレル/日増加した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は255.9万klと、前週に比べ8.9万kl減少。前年に対しては4.3万klの減少。トッパー稼働率は73.9%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては3.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.4%増、ジェット/0.7%増、灯油/22.7%減、軽油/2.4%減、A重油/1.1%増、C重油/11.7%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.7万kl減)。軽油の輸出は8.1万kl(前週比0.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は72.2万kl(対前週10.3%増)と3週振りに増加した。ジェット9.1万kl(対前週33.5%増)、灯油5.8万kl(対前週

54.0%減)、軽油56.1万kl(対前週8.0%減)、A重油16.7万kl(対前週8.7%増)、C重油9.2万kl(対前週36.6%減)。

(単位：千L)

| | 今週 (10/13～10/19) | 前週 (10/6～10/12) | 前週比 |
|--------|---------------------|--------------------|--------------|
| ガソリン | 722 | 654 | ▲ 68 (10%) |
| ジェット燃料 | 91 | 68 | ▲ 23 (34%) |
| 灯油 | 58 | 126 | ▼ -68 (-54%) |
| 軽油 | 561 | 610 | ▼ -49 (-8%) |
| A重油 | 167 | 154 | ▲ 13 (8%) |
| C重油 | 92 | 145 | ▼ -53 (-37%) |
| 合計 | 1,691 | 1,757 | ▼ -66 (-4%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

10月19日時点の在庫は、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは171.0万kl、前週差9.7万kl増。前年に対しては1.1万kl多い。

灯油は261.4万kl、前週差2.7万kl増。前年に対しては35.9万kl少ない。

軽油は142.2万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては16.0万kl多い。

A重油は74.3万kl、前週差3.0万kl増。前年に対しては3.6万kl少ない。

C重油は171.1万kl、前週差6.6万kl増。前年に対しては29.4万kl少ない。

(単位：千KL)

| | 今週 (10/19) | 前週 (10/12) | 前週比 | |
|--------|---------------|---------------|-------|--------|
| ガソリン | 1,710 | 1,613 | ▲ 97 | (6%) |
| ジェット燃料 | 874 | 878 | ▼ -4 | (-0%) |
| 灯油 | 2,614 | 2,587 | ▲ 27 | (1%) |
| 軽油 | 1,422 | 1,407 | ▲ 15 | (1%) |
| A重油 | 743 | 713 | ▲ 30 | (4%) |
| C重油 | 1,711 | 1,645 | ▲ 66 | (4%) |
| 合計 | 9,074 | 8,843 | ▲ 231 | (2.6%) |

5 国内/元売会社製品卸価格

10月15日～21日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートの円安がわずかにこれを相殺したが、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。補助金の減額が建値の値下がりを下回り、10/24～10/30の実質卸価格はわずかに値下がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

10月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの174.9円、軽油も同横ばいの154.5円、灯油も18%ベースで同横ばいの2,112円(1%ベースでも同横ばいの117.3円)。ガソリンは2週ぶりに値下がり止まり、軽油も2週ぶりに値下がり止まり、灯油は2週連続の横ばい。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり19県、横ばいは3県、値下がり25都道府県だった。全国最安値は岩手県の168.0円、その次は宮城県の168.6円であった。他方、最高値は長野県の184.4円。最も値上がりしたのは愛知県(同1.9円高)、最も値下がりしたのは沖縄県(同1.3円安)だった。

次回調査時(10/28)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/ℓ)

| (資工庁公表) [週動向] | 今週 (10/21) | 前週 (10/15) | 前週比 | 直近高値 |
|------------------|------------|------------|-------|---------------|
| レギュラー | 174.9 | 174.9 | ➡ 0.0 | 23/9/4 186.5 |
| 灯油 | 117.3 | 117.3 | ➡ 0.0 | 08/8/11 132.1 |
| 軽油 | 154.5 | 154.5 | ➡ 0.0 | 08/8/4 167.4 |

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第29号) の公表は、11/1 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保障するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。